

ボーリング柱状図

調査名

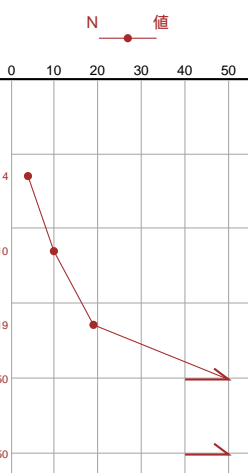
ボーリングNO.														
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名	B-6(付替林道)			調査位置								北緯	36° 51' 0.2000"				
発注機関	栃木県 大田原土木事務所				調査期間	2009-08-05 ~ 2009-08-05					東経	140° 11' 52.5700"					
調査業者名					主任技師			現場代理人				コーン定者			ボーリング責任者		
孔口標高	328.92 m	角度			方位			地盤勾配			使用機種	試験機		ハンマー落下用具			
総掘進長	5.00 m										エンジン		ポンプ				

標尺	層厚	深度	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記	地層岩体区分	孔内水位 (m)	標準貫入試験						原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日			
											深度	10cmごとの打撃回数			打撃回数 / 貫入量	深度					試験名および結果	深度	試料番号
(m)	(m)	(m)	(m)					事		測定月日	(m)	0	10	20	30	(cm)	(m)	(m)					
1	327.92	1.00	1.00	表土 (SF)	暗褐色		軟らかい	非常に軟らかいシルトから成る。表部10cm間には有機質を帯びる。以深、5-10mm程の礫分を稀に含む。GL-0.75m以深、粘性を増す。															
2	326.92	1.00	2.00	礫混りシルト (M-G)	暗褐色		中くらい	土は含水中で軟らかく、全体に粘土質を帯びる。礫は10-30mmの頁岩片を主体に最大50mm内外を混入する。局部的に砂分の含有が見られる。															
3	326.07	0.85	2.85	シルト質砂礫 (GSM)	暗褐色			礫は10-30mmの岩片を主体に最大50mm程を混入する。マトリックスは多量のシルト分と少量の砂分で構成され、隙間を細く充填する。															
4	325.12	0.95	3.80	強風化岩 (WR)	茶灰			風化・変質が著しく、岩性は非常に脆弱である。コアは砂礫状-細礫混り粘土状で採取される。															
5	323.87	1.25	5.05	頁岩 (Sh)	暗褐色			ダイヤモンドビットでの掘進が不可欠である。GL-4.5m付近までは多発する層理の影響でコアは角礫状を主体とし、層理傾度の低下部 (GL-4m付近、GL-4.5-5m間) では短棒状-片状で採取される。風化・変質は層理面に沿う硬色が見られる程度で母岩自体の硬度劣化は感じられない。亀裂は斜状を主体にやや多いものの、開口性のもは無く、密着性亀裂 (ヘアークラック) による。															



08/05